

第一号公園愛護委員会結成

田中水門付近の公園である第一号公園が区画整理課より公園課に移管されましたので、下記のように愛護委員会を結成しました。

- 顧問 早川 博明 和氣 加太志
- 会長 小原 正行
- 副会長 遠藤 欽也
- 管理人 中尾 信夫
- 会計 杉山 三郎
- 公園利用調整責任者 平松 里志
- 委員 木村 強 応江 一郎
- 三村 元秀 中尾 三千義
- 白石 誠 正保 寛
- 和氣 哲典 原 久昭

感謝

- 和氣 正明さんより香典返しとして、町内会へ金一封を戴きました。
- 原 未隆さんに、町内の掲示版を作って頂きました。
(第一号公園)

< 会員名簿の変動 >

転	名 称	地名	地 番	連絡先	備考
	グレイスHARA	田中		原建設	原マンション原正夫
入	入居者	101号 安永 均	102号 小林 淳	103号 浅井 博子	
		201号 松田 浩幸	202号 斉藤 信宏	203号 野田 二三男	
		301号 小川 新吾	302号 小原 政男	303号 藤本 真也	



わが郷土を語る(その19)
中尾 佐之吉

戦前 正月行事は旧暦だった

明治になってから太陽暦になっているのに、なぜと不審に思われる方はこの記事を読んでいただきたい。

私がこどもの頃(今から70年くらい前)、当時、田園地帯であったこの地方は、稲作が主体だったが、裏作として「い草」の栽培も盛んであった。(注1) い草は、12月から1月にかけての真冬に植え付けをする。稲の刈り取りの終わった田んぼを耕起し「代かき」をして水の張った冷たい水の中でも素手で植えるのであるから大変な作業であった。寒さの厳しいときは、時々「トンド」をして暖をとらなければならなかった。植え付けるい草はそれまでに夜業して株わけ(「い苗かき」と云っていた)するのである。親たちは、疲れた体にむちうって昼間の作業をしていたのであるから苛酷な労働であったと思う。

親たちがそうであるから、こどもたちも応分に働かされた。稲の取り入れ時には、学校から帰ると初めの「むしろ干し」の取り込みや家の中の仕事をした。家で勉強をするなどということではなかった。親も「勉強する間があれば仕事をせい」(この頃とまるで反対)であった。

学校が正月休みに入ると、い草の掘取り、株分けの手伝いなど夜業もさせられた。正月はちょうど農繁期の最中であったから、どこの家も正月のお祝いや正月休みはできなかった。

しかし、正月の祝賀をしないのでは習俗に反するので、大体1か月おくれで行われる旧正月で祝った。明治になってから暦は太陽暦に変わったのだが、この地方の農家は、戦争でい草がつかれないようになるまで、昔どおりの太陰暦を併用していたことになる。

ところで、旧正月であろうがともかく正月に、当時のこどもたちは何をして楽しんだのかと問われると返答に困ってしまう。旧正月では学校が休みでなかったことは当然であるが、当時は、テレビもなければラジオもない。(注2)まして、ファミコンやビデオなどは思いもよらない。室内の遊びは、せいせい「双六(すごろく)」か「カルタ取り」くらいのもので、屋外では男の子は「たごあげ」か、これも面倒だから「バツチン」などをして遊んだかなあ……。それに、いまは車社会、こどもにやさしい親たちに、自家用車で方々へ連れ出してもらえる。

そして、さらにつけ加えたいのが「お年玉」のこと。私はお年玉などもらったことがない。このごろのこどもは、お年玉を貰うのはあたりまえ。また、お年寄りには年金がもらえ貯金もできて、おじいちゃんおばあちゃんは孫へお年玉をやることを楽しみにしているとか。なにもかも結構なことと云いたい、世の中も変わったものだ。

注1) 当時、私の家では田んぼの半分くらい「い草」を植えていた。今村史に見られる統計では、昭和9年として次のような数字が記載されている。

水稲作付反別	379.5	町歩
い草 "	144.9	"

つまり、い草は田んぼの4割りくらいに植えられていたことになる。

また、当時岡山県は、全国のい草作付反別の半分近くを占め全国一であったが、現在では北九州地方が主流である。かつて、い草王国をほこっていた当地方に、も早い草は全くみられない。

注2) わが家でラジオを買ったのは昭和16年(岡山放送局は昭和6年開局)松下電気産業の4球真空管付きラジオセットで値段が75円、当時の私の月給の1.5倍であった。米の価格で換算すると(当時は米1俵16円50銭)今の値段で9万円くらい、カラーテレビ並であったわけで、米の値段にくらべて工業製品がきわめて高価であったことがうかがえる。(私は、親を驚かせてはいけないと、このラジオの価額をよう明かさなかった。)

なお、テレビは、昭和32年に14インチ白黒テレビを始めて買っている。値段は忘れた。



い草の植え付け 撮影 和氣 督祐

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
今年が成年です。犬は昔から人に最も身近な動物ですが、昨今の不況から、町内でも捨て犬が何匹か見かけられます。早く人も犬も安心して住めるような景気回復を願ってやみません。
さて、長らく担当してまいりました現編集委員メンバーでの町内新聞も今号が最後になります。原稿を書いて頂いた方々に感謝いたしますとともに、これからのご愛読をお願いいたします。

編集委員一同